

OTELLO

オテッロ

一途で純粋な女心 等身大で演じたい



福田 祥子

デズデーモナ役(27日)

— 役が決まったとき気持ちはいかがでしたか。

オペラを勉強し始めてから、ヴェルディの曲はいくつか温めていまして、その中でも思い入れのある役柄だったので、嬉しくて幸せな気持ちで一杯になりました。

— 今回の舞台に向けて、楽しみにされていることを教えてください。

『オテッロ』は、ヴェルディ後期の作品で、ワーグナーの作品からとても影響を受けていると思うんですね。前回の公演『パリアッチ(道化師)』で一緒させて頂き、今回も指揮を振られるグイード・マリア・グイードさんはワーグナーにも精通されていると記憶しておりますが、今回このヴェルディの『オテッロ』を

どのように作っていかれるか、とても楽しみにしております。

— 一途なデズデーモナは、オテッロのどんなところを愛したのでしょうか。その女心をどのように演じたいですか。

大きな溢れんばかりの愛情をぶつけてくる彼の熱意に惹かれたのだと思います。私も熱意ある思いを熱心に届けられたら、その思いに負けてしまうようなところもあるので、デズデーモナの気持ちを素直に感じ、受け止めて演じたいと。あんなに愛していると言った人が、周りの人を信じて、その結果、自分を裏切るといのは衝撃的なことだと思います。その辺りを上手く表現できるように、デズデーモナ像を作っていきたいです。

— 普段の生活で、役作りに活かされていることはありますか。

映画を観ることが大好きで、特に洋画ですけれども、オペラは西洋の文化なので立ち振る舞いをすごく参考にしています。好きな作品は何十回も見て、その度に色んな新発見があるんですね。至福の時間なので、時間があれば良く観ているかもしれません。

とてつもなく好きな ヴェルディの愛に溢れた二重唱



畑 友実子

デズデーモナ役(28日)

— デズデーモナは、オテッロのどんなところに惹かれたのだと思いますか。

デズデーモナは純粋で無垢な女性なので、かなり年上の將軍で頼りになる男性という面に惹かれたのではと思います。オテッロの持つコンプレックスには気が付かず、真直ぐに彼を想っていたのかな。私とは全く違って、1ミたりとも重ねられるところがなくて、演じる上で今から悩んでいます。

— デズデーモナが、愛するオテッロに殺されてしまう場面は見どころの一つです。

— デズデーモナが、愛するオテッロに殺されてしまう場面は見どころの一つです。

— 演じ方のプランはいくつか考えているのですが、「何故オテッロは自分のことを信じてくれないのだろう」という何とも言えな

い悲しい気持ちを抱えているのと、二つ目は「もし自分が死んだら呪うぞ」というパターンか(笑)。どっちがいいかなと思っています。

— 『オテッロ』で一番好きなシーンを教えてください。

一幕のデュエットが私はとてつもなく好きですね。二人の一番幸せな時で、メロディックな音楽で愛に溢れた場面だと思います。25歳の時にパルマの音楽院に留学し、そこでヴェルディの作品を通してベルカントを勉強し始めたところから、この二重唱が好きでした。役が決まったときは、もちろん嬉しかったのですが、身に余る思いということの方が大きかったです。

— ほかの作曲家と比べて、ヴェルディを歌っているときに感じる魅力はありますか。

お腹の中に“グワツ”と温かいものが集まって、ヴェルディがいて支えられているような感じがします。ヴェルディのオペラを演じている間は、ずっとそのエネルギーが繋がって、まるで線路を真直ぐゆっくと歩いているような気持ちになるんです。

O TELLO

オテッロ

甘美で柔らかい“悪魔のささやき”



細川 勝

イヤーゴ役(27日)

——稀代の悪役イヤーゴに挑戦ですね。どのように演じられたいでしょうか。

私は教師という仕事をしておりまして、理性的な部分を教える立場にあるのですが、悪役をするとね、変な話なのですが、ちょっと快感なんです(笑)。本能が悪で、それを理性で抑えているのが今の人間の社会なのかなと感じています。特別な怪物を演じるのではなく、誰しもが持つ本能にひたすら忠実な人間像を描けたらと思っています。

——優しそうな細川さんの雰囲気から、どんな風な悪役が見られるのか楽しみです。

昔から“悪魔のささやき”という言葉がありますが、それはとても甘美なものなんです。オペラの中のイヤーゴの歌声も、とても柔らかくて優しくて、人を取り込むようなフレーズ感が出てきます。そういう甘美な部分を、美しく歌いながら表現していけたらと思います。

——多くの人がイヤーゴに共感する部分はあると思います。

私も一歌手として、色んな人たちの羨ましいと思うことはいっぱいありますし、ただそういうものは、なかなか出せませんからね。人間なら誰しもが持っている妬みやひがみといったものを、あれだけ明け透けにバーンと出せるのは羨ましい気持ちもあります。

——お客さまに、特にどんな場面に注目してほしいですか。

イヤーゴがオテッロを誘惑して、復讐の道に引きずり込んでいくシーンを観ていただきたいです。オテッロを引き込んだ後、二幕のフィナーレでオテッロとイヤーゴが二重唱を歌うのですが、このシーンが私は好きで、とても聴きごたえのある重厚な二重唱です。

楽譜を読み解きながら、極悪人に肉薄していく



米田 哲二

イヤーゴ役(28日)

——役が決まった時の気持ちを教えてください。

数十年前ですがファルスタッフを演じて、今度は『オテッロ』のイヤーゴ役。この二作品はヴェルディ晩年の大曲で、シェイクスピアの作品をもとに作られた悲劇と喜劇です。その両方の役を演じられるのは、私の音楽人生の中で大きな喜びだと思いました。

——極悪人の役を演じるのは難しそうですね。

バリトンの声は多種多様な人物を表現することが多いのですが、純粋な青年役を演じる方がむしろ難しい。私自身が極悪人かどうか分かりませんが(笑)、人間の持つ邪悪さを演

じる面白さがありますね。楽譜を丹念に読んで、作曲家が求める声の響きや音色を読み解きながら、イヤーゴという人物に肉薄していく。その音楽作りの中に喜びがあります。

——『オテッロ』の音楽で、どんなところに魅力を感じていますか。

伝統的な歌オペラから劇オペラに移行し、アリアよりも、全体の音楽の流れの中で言葉が発せられていく作品です。それぞれのキャラクターの内面が音楽を紡ぎ出し、ドラマを織りなしていく美しさがあると思います。

——台詞が多いので、練習が大変そうですね。歌うこと以外に、普段の生活でお好きなことを教えてください。

毎日声を出して歌っていかないと覚えられないです。歌うこと以外に好きなことは、阪神タイガースを応援することです。野球少年でしたので、夢はプロ野球選手になることだったのですが、ある日突然音楽の道に。それはそれで良かったなと思っています。

(インタビュー:金子真由)

公演監督の一言

コロナ禍の中で、出演者、スタッフにも様々な困難が噴出しましたが、それら全てを貴重な経験として学び、公演の成功と、更なる飛躍へと進んでゆく関西二期会の団結力と層の厚さにご期待下さい。(公演監督 斉藤言子)

Concert Review

コンサートレビュー

関西二期会第92回オペラ公演 「カヴァレリア・ルスティカーナ」「パリアッチ(道化師)」

関西二期会の正に大願たる舞台だった。国内で徐々に拡がりつつあった新型コロナウイルスに対し、会場をはじめとするバックアップを得て本公演の幕は上がった。当時WHOは非推奨だったが、客席には感染防止としてマスク着用の姿も。そのマスク/Maskという言葉(“^{えんべい}掩蔽”、“仮面で覆う”といった意味合いもある)が、本公演の重要なキーワードでもあったのは何たる巡り合わせだったことか。

本演目に通底していたもの、それは19世紀末のヴェリズモ(現実主義)に即したイタリアを舞台とする市井の男女の生々しい愛憎、不義を巡る悲劇的な殺傷沙汰だ。《カヴァレリア・ルスティカーナ》では、居酒屋の息子トゥリッドゥは婚約者サントウツアに人妻ローラとの不義を問われるも“^{えんべい}掩蔽”しようとする。また《パリアッチ》では、旅芸人一座の座長カニオは妻ネッダが若い村人シルヴィオと通じていることを知り、その絶望を“仮面で覆う”ごとく道化の化粧を施し歌う。この両作



「カヴァレリア・ルスティカーナ」 撮影：早川壽雄

とも、“マスク”された心や真実は、隠そうにも白日の下に晒され、噴き出し、悲劇的な顛末を迎える。そんな劇的な展開を見せる両作に対し、演出・舞台美術のパオロ・パニツァは、各々異なるアプローチで人間の深淵と云うべきものを見事に浮かび上がらせた。

《カヴァレリア・ルスティカーナ》では巨大な十字架を舞台に据え、人々の信仰心のみならず原罪や死をも多層的に象徴させたパニツァ。《パリアッ

チ》では道化役者の渦巻く心の闇(内面)を映すかのような大きな鏡を舞台上で巧みに生かした。そのような演出にあって、歌手陣は主役から脇役に至るまでワンチームとして何と有機的だったことか。特にサントウツア役・福原寿美枝の深奥な存在感、そしてカニオ役・小餅谷哲男の狂気へ直走する渾身の演唱に、会場は大きく沸き返った。

また、群衆に扮し健闘した関西二期会合唱団やメシシアター少年少女合唱団、そしてグイード・マリア・グイード指揮による大阪交響楽団の心通った情動的な演奏も特筆したい。(2020年2月23日所見：村田英也)



「道化師(パリアッチ)」 撮影：早川壽雄

2020年2月22日(土)、23日(日)

東大阪市文化創造館
Dream House 大ホール

指揮者：Guido Maria Guida
(グイード・マリア・グイード)

演出：Paolo Panizza
(パオロ・パニツァ)

管弦楽：大阪交響楽団

谷やんの

企画・制作 デイリーライフ

⑫ 舞台上のリーダーシップ

リハーサルで楽員から棒の振り方をケチョンケチョンに批判され、閉口する指揮者を見たことがある。場を覆う重苦しい空気。本番の出来が懸念された。だが当日、清新な演奏で聴衆は拍手喝采。くだんの指揮者も楽員と笑顔で目礼した。

公演のこんなオモテ・ウラに触れ始めた頃は、舞台のリーダーシップをだれが担っているのか不思議に思えてならなかった。オペラや合唱、指揮者のいない室内楽でも、リハーサルでは、煮えたぎる地下のマグマのように様々な思いが共存する。だが本番は演者がとにもかくにも結束し、感動的な舞台を生み出すことが結構ある。組織論の教科書には、あまり出て来ない現実だ。実演組織とは本当に不思議なチームである。

9月、沖縄で見た《兵士の物語》の舞台で、その思いを強くした(主催:一般社団法人日本クラシック音楽事業協会*)。没後半世紀を迎えたストラヴィンスキーの劇音楽。休暇で故郷を目指す兵士が悪魔に騙され、一度は暖衣飽食、奢侈に耽る。が生活に疑問を感じた兵士は、重病の王女を癒やしたのを機に改心、揃って故郷を目指す。悪魔に阻まれるという民話譚。1時間を要する。

第1次大戦で困窮した作曲者が、似た境遇の作家や指揮者と意気投合、1918年に初演した。当時はコロナ禍同様、万事緊縮の時代。「最低限の編成で最大限の効果を」とばかり、奏者はクラリネット、ファゴット、トランペット、トロンボーン、ヴァイオリン、コントラバスに打楽器の7人だけ。だが、あの《春の祭典》の作家のこと、民族主義の薫りが残り、変拍子も連続。一方、フランス風ワルツやジャズ、ラグタイムといった大衆音楽も盛り込まれ、演奏はかなりの難物。指揮者を置く公演が多く、この回もそうだった。

曲には「読まれ、演じられ、踊られる」の副題が付く。朗読者が舞台に陣取る。ローザンヌでの初演時には兵士・悪魔・王女役の俳優3人、踊り手1人が起用された。沖縄では、この作品の現代上演のスタンダードというべきか、朗読者が単独で全場面を演じた。

さてリーダーはだれか? 指揮者が演奏を統括しているようには見えるのだが、プレーヤーは腕に自慢の名手揃い。上質の室内楽同様、個々の特性がほとぼしる。指揮者は彼らの裁量を受け容れ、プレーヤー相互の合

奏を綿菓子で包む如く緩やかに、それでいて要所を押さえ束ねるように動く。一方、朗読者は、声色や語りのテンポも緩急自在に語る。指揮者の期す時間の流れと、朗読者のそれと。チグハグな場面もあった。が、個々のプレーヤーの機転や妙技がそれを補い、緊張感を保って聴衆のハートをつかんだ。

同じ《兵士》でも筆者はかつて、ダンサーやパントマイム(無言劇)役者が現れたり、紙芝居を使ったりの例を見たことがある。譜面と脚本を軸に音楽家、語り手、役者、ダンサーらが交錯し、ある時は前景に出、次の瞬間には後景に退く。演者が一つの有機体、チームになる。

そんな舞台は、だれかが常時、「主軸」として司る訳ではない。演者一人ひとりが、時に臨んで瞬時にリーダーとなり、またそれを支えるフォロワーに回る。あるいは上下関係の無い平等な存在(パートナー)として併存し、多人数



チームワークの妙で楽しませた舞台「兵士の物語」。緊急事態宣言下、嚴重な感染防止対策を施して開催された=2021年9月4日、沖縄・南城市シュガーホール ©日本クラシック音楽事業協会

で一つの、正にチームとして一つの、同時多発的な表現を、時には拮抗しながらも調和させる。

また驚くべきは本番中の、絶妙の意思疎通である。息継ぎ・目配せ・身体痙攣一言を介さない無数の合図が常に電光石火で、舞台上を行き交い、心通わせる。そうそう忘れちゃいけない。客席の反応も影響を与える。

舞台は顧客に、音楽を楽しませる。でもそれ以上に、才能溢れるメンバーで成り立つ色んな組織(会社でも、役所でも、学校でも、PTAでも町内会でも!)で、構成員全員が自らの特性を存分に発揮し、同時に「調和の全体」をも形づくれる。そんなユートピアを体現する、「組織経営の学校」でも有り得るのだ。

(谷本 裕 沖縄県立芸術大学教授、関西二期会顧問)

*「クラシック・キャラバン2021」クラシック音楽が世界をつなぐ(動物の謝肉祭)《兵士の物語》と題された、全国ツアーの皮切り公演。コロナ禍の音楽界活性化に向けた、文化庁の「大規模かつ質の高い文化芸術活動を核としたアートキャラバン事業」助成を受けている。

オペラ座の

凡人

～平凡人の歌劇な随想

その43 「泣いて、どうする」

泣くことに凝っている。

といって齢を重ねて気弱になったからでもなく、涙腺がもろくなったわけでもない。その傾向は確かにあるけれど、だからと言って、簡単に泣いてはいられない。泣きはしない。

わけを言うより、オペラ世界では公用語が「泣き」の冗談まであるほど「泣き」の場面が多い。むしろ「泣き」がないオペラのほうが稀少だろう（本来が喜劇のブッフは別）。

そこで思いつくままに「泣き」の絶品場面を自由に選んでみよう。作曲家は…やはりプッチーニが紅涙を絞るだろう。まず主な登場人物がすべて死んでしまう歌劇《トスカ》から「歌に生き恋に生き」「星

も光りぬ」。《蝶々夫人》から有名なアリアでなく合唱で「バルカローレ」、幕切れ近くの「子別れの場」。《ラ・ボエーム》は全編「泣き」の場だが1曲なら「私の名はミミ」か。《ジャンニ・スキッキ》から、悲しい場面でなくとも泣ける「私のお父さん」。そうして歌劇王ヴェルディなら《椿姫》も《リゴレット》も「泣き」の名作だが、ここでは故ありて(笑)、「泣き」に心理劇の奥行きを加えた《オテッロ》を。妻の貞操に疑いを持つように仕組まれた男が入りこむ疑心暗鬼の底なし沼。夫の誤解と殺意を知りつつ夫を待つ妻。ここでも幕切れで厳しい清算が訪れる。

現実社会では、先般のオリ・パラ熱波の余熱なのか、人前で泣く人が急速に増えた。日本は「大人が泣く」ことにまだ甘いという。うろ覚えで書くのだけれど、丸谷才一氏の随筆を読んだ記憶に寄り掛かって、大意を書く。「国によ

ては、どんな理由にせよ責任ある大人が、公の席で泣くとは言語道断、というのが不文律。大きな選挙前にAとBの2人の候補者がテレビで対談した。事前の人気は圧倒的にAが優勢。ところが災害の被災者支援の話題になると、Aの眼に涙があふれてきた。親族に多く被災者がいたのだ。Bは災害などを空から俯瞰する対策が得意。整然と、空からの急速な支援策を展開した。Aは涙声で大統領の応援電話に礼を述べた。放送終了後、2者の支持率は逆転していた。一市民の曰く、Aは良い人。でも自分の感情をコントロールできない。国を任せるのはB。昔から隣り同士の国と国で戦ってきた国民らしい厳しさだ

そういえば、自分の選挙演説に自分で感動して泣いている人、見たことある。やるものだ。

(作家・音楽評論家：響 敏也)

公益社団法人関西二期会賛助会 入会のお願い

関西二期会は、オペラを中心とした音楽活動及び真摯な芸術活動を通じ、社会に夢や潤いを与え続けます。関西二期会の活動にご賛同いただける皆様に、法人・個人を問わず、何卒賛助会員としてご入会下さいますようお願い申し上げます。

賛助会員ご芳名

特別会員：上野製菓株式会社

あいおいニッセイ同和損害保険株式会社	京セラ株式会社	住友電気工業株式会社	株式会社ハートス
株式会社浅沼組	倉敷紡績株式会社	ダイキン工業株式会社	阪急電鉄株式会社
荒川化学工業株式会社	鴻池運輸株式会社	大日本除虫菊株式会社	富士有限会社
上野製菓株式会社	学校法人神戸女学院	タカラベルモント株式会社	株式会社丸善
稲畑産業株式会社	コーナン建設株式会社	株式会社竹中工務店	ミズノ株式会社
株式会社エフエム大阪	サラヤ株式会社	株式会社帝国ホテル	株式会社美々卯
株式会社大阪共立	サントリーホールディングス株式会社	株式会社テクノーブル	森下仁丹株式会社
大阪シティ信用金庫	三宝電機株式会社	東京衣裳株式会社	株式会社モリタ
公益財団法人オリックス宮内財団	株式会社滋慶	医療法人二村耳鼻咽喉科ボイスクリニック	ロイヤルステージ株式会社
			(他、匿名1社)

芦原 恭子	遠藤 秀夫	小八木 規之	田中 義雄	林 律
我孫子 昌三	門屋 淳子	佐野 吉彦	藤堂 稔之	早嶋 茂
石塚 克哉	北嶋 勇志	佐守 友博	中村 雅夫	樋口 信治
伊藤 勲	蔵田 由美子	杉野 守彦	西田 俊夫	藤友 俊雄
岩佐 益男	黒田 まさき	辰野 勇	仁禮 直之	山口 博子
江崎 正道	小谷 公徳	田中 昭子	長谷川 弘	山口 真子

(令和3年9月末現在 敬称略)

受賞のお知らせ

理事
清水光彦
令和2年度ともしびの賞

理事
三井ツヤ子
2020年度 第40回藤堂音楽賞

テノール正会員
土田景介
第38回黒川録朗賞

バス正会員
萩原泰介
第11回岐阜国際音楽祭コンクール
専門コース声楽部門一般II 第1位

新入会員の
紹介



東園
Sono Higashi
(ソプラノ正会員)



青木 文音
Ayane Aoki
(ソプラノ準会員)



糸田 麻里絵
Marie Itoda
(ソプラノ準会員)



上野 緑
Midori Ueno
(ソプラノ準会員)



猿渡 みらい
Mirai Endo
(ソプラノ準会員)



加島 佳奈子
Kanako Kashima
(ソプラノ準会員)



草野 舞
Mai Kusano
(ソプラノ準会員)



阪口 楓
Kaede Sakaguchi
(ソプラノ準会員)



竹端 友香
Yuka Takehana
(ソプラノ準会員)



茶川 美音
Mio Chagawa
(ソプラノ準会員)



西森 美佳
Mika Nishimori
(ソプラノ準会員)



乃村 八千代
Yachiyo Nomura
(ソプラノ準会員)



橋詰 佳穂
Yoshiho Hashizume
(ソプラノ準会員)



東 奈央
Nao Higashi
(ソプラノ準会員)



丸山 紗佳
Suzuka Maruyama
(ソプラノ準会員)



矢代 あすみ
Asumi Yashiro
(ソプラノ準会員)



影原 真由美
Mayumi Kagehara
(メゾソプラノ準会員)



種村 ひかり
Hikari Tanemura
(メゾソプラノ準会員)



吉岡 彩
Aya Yoshioka
(メゾソプラノ準会員)



嵐田 優介
Yusuke Shimada
(バリトン準会員)



小椋 伸人
Nobuhito Ogura
(バリトン準会員)



武久 竜也
Tatsuya Takehisa
(バス準会員)



千代崎 元昭
Motoaki Chiyozaki
(テノール正会員)

東京二期会より移籍

オペラ公演スケジュール2021◆2021年9月現在

10 October

8日(金) 18:00 2021グランドオペラフェスティバル in Japan
『アドリアーナ・ルクヴルール』
一宮市民会館
出演：泉貴子/小餅谷哲男/武久竜也/萩原寛明/藤田大輔/沼田葉子

13日(水) 18:00 2021グランドオペラフェスティバル in Japan
『アドリアーナ・ルクヴルール』
周南市文化会館
出演：井上美和/武久竜也/萩原寛明/大西信太郎

11 November

27日(土) 16:00、28日(日) 14:00
第93回オペラ公演『オテット』
吹田市文化会館メシアター大ホール
27日出演：
西口浩二/福田祥子/細川勝/八百川敏幸/森理奈/しまるく羊太/片桐直樹/萩原泰介
28日出演：
小餅谷哲男/畑友実子/米田哲二/藤田大輔/岸畑真由子/山本欽也/武久竜也/神田行雄
公演監督：齊藤言子

12 December

24日(金) 18:00 2021グランドオペラフェスティバル in Japan
『アドリアーナ・ルクヴルール』
岡谷市文化会館(カノラホール)
出演：松本薫平/武久竜也/東平間/藤田大輔

オペラ公演スケジュール2022

3 March

12日(土) 16:00、13日(日) 14:00
第94回オペラ公演『ドン・ジョヴァンニ』
兵庫県立芸術文化センター KOBELCO大ホール
12日出演：
大谷圭介/片桐直樹/中西千尋/諏訪部匡司/佐竹しのぶ/萬田一樹/菊田隼平/奥田敏子
13日出演：
萩原寛明/萩原泰介/木澤佐江子/秋本靖仁/森川華世/山咲響/谷本尚隆/岩本実奈子
公演監督：米田哲二

11 November

25日(土) 16:00、26日(日) 14:00 第95回オペラ公演『リゴレット』
吹田市文化会館メシアター大ホール